

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	障害者サービス				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	図書館			1	10	5	5	10	5	0
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり				包含する細々目	1	10	5	5	10	2	49,800
施策	28 学習交流活動の推進					1						49,204
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	関連計画 条例等							
		事業期間		年度～		年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	視覚障害者及び図書館に来館困難者	障害者	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			1420	1500			
	高齢者	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		24830		
		24800					
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	図書館への来館困難者及び視覚障害者でも読書に親むことができ、必要な情報を入手することが出来る。	録音図書・雑誌製作数	18目標	140	最終目標	200	
			18実績	171	19目標	180	↑
		23目標	190	23実績		最終目標達成年度	
		録音図書貸出タイトル数	18目標	3900	最終目標	4300	
18実績			4093	19目標	4000	↑	
23目標			4100	23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値	
	「すべての人に図書館サービスを」を基本に、資料をそのままの形で利用できない方のために、資料を音訳し、提供し図書館利用に障害のある人たちの読書権を保障し、暮らしに必要な情報を提供する。	18年度の実績	・録音資料製作に当たって、著作権の許諾処理を行い、ボランティアの力で朗読または音訳をし、校正を経てテープ化・CD化した資料を、利用者への受け入れ作業を行い提供する。また、自館にない資料は相互貸借をして提供する。 ・音訳ボランティアの養成を行う。 ・デージー図書(CD録音図書)の編集に当たり、上田点字図書館と連携して資料拡充に努める。 ・弱視者に対して大活字本の提供及び市販朗読テープの提供を行う。	録音図書製作数 録音雑誌製作タイトル数 デージー図書製作数 大活字本数	121 10 50 1137
		19年度計画	・録音資料製作に当たって、著作権の許諾処理を行い、ボランティアの力で朗読または音訳をし、校正を経てテープ化・CD化した資料を、利用者への受け入れ作業を行い提供する。また、自館にない資料は相互貸借をして提供する。 ・音訳ボランティアの養成を行う。 ・デージー図書(CD録音図書)の編集に当たり、上田点字図書館と連携して資料拡充に努める。 ・弱視者に対して大活字本の提供及び市販朗読テープの提供を行う。	録音図書製作数 録音雑誌製作数 デージー図書製作数 大活字本購入数	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
一般財源			
事業費計(A)		0	0
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,000	19年度 1,000
	臨時職員等所要時間	1,698	1,698
	人件費計(B)	5,401	5,401
	トータルコストA+B	5,401	5,401

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	資料提供の拡充が学びの機会を広げ、社会活動に参加できるよう支援する。	学習活動を行っている市民の割合	現状値	38	19実績	
			20実績		21実績	
	社会活動に参加できる市民の割合	社会活動に参加する市民の割合	22実績		23目標	40
			現状値	68.9	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	70	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
新館オープンした昭和56年、国際障害者年に当たり、図書をそのままの形で利用できない人々への資料提供サービスを開始。その年、視覚障害者向け録音図書製作に関わるボランティアを募集し、養成を開始する。	テープ図書製作からパソコン編集してデジタイズ(CD録音図書)の要求が増加している。ボランティアの養成も録音でき、かつパソコン操作が堪能な方が求められ、養成も必要となってきた。	録音図書製作には時間がかかるため、障害者の方は新しい録音図書の出来上がるのを心待ちにしている、出来るはしから借りる方もいる。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	現状と同じボランティアの養成とコーディネートで録音図書の製作数の増加を目指す。また、相互貸借によりスピーディーに提供することを目指す。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	